

今号では、動画コンテンツを活用した反転授業の動向を紹介すると共に JMOOC ワークショップ開催のご報告を中心にお伝えします。

contents

e-Learning center Newsletter No.16

- MOOCs と反転授業の動向とその可能性
- information JMOOC ワークショップ開催報告
- eALPS 関連の研修会を開催しています
- eALPS バージョンアップ情報③

MOOCs と反転授業の動向とその可能性

e-Learning センター研究開発運用部門の長谷川と申します。信州大学に着任して2年半ほど経ちました。普段は、兼任している総合情報センターと e-Learning センターの業務をこなしながら、e-Learning に関わる研究、主に ICT を活用した教育における学習者特性の分析を初めとしたデータマイニングの研究を行っています。



研究開発部門
長谷川 理 助教

去る10月10日に、長野（工学）キャンパスで JMOOC ワークショップが行われました。本学はまだ JMOOC に加盟しておりませんが、MOOCs に関心のある方も多く存じます。また、JMOOC と時期を同じくして注目されている反転授業があります。

反転授業は、その発祥の地米国で Flipped Classroom と呼ばれています。最近では、バズワードとなってしまっており、明確に定義を述べるのが難しいように思います。大まかには、「講義を宿題（または予習）としてオンライン等で提示し、演習を教室で行う授業」を指します。従来行われてきた教室で講義を行い、演習を宿題にするという授業形態を反転させたように見えるためこのように呼ばれます。

一方 MOOCs は、Massive Open Online Courses の略で、インターネット上で誰もが受講できる授業のことを指します。特に有名なプラットフォームである Coursera や edX は、それぞれ百万人単位の受講者がいるといわれています。日本でも東京大学が Coursera、京都大学が edX にそれぞれ講義を公開し話題となりました。しかし、「ビジネスとして成り立つか」「一定以上の学習効果を確認できるのか」という課題もあり、まだまだ普及しているとはいえない状況です。信州大学としても配信する講義を収録する設備や人的なコストを考

えると現状では難しいかもしれません。ただし、MOOCs は提供者としてではなく利用者として考えると、そのオープンであるという性質から、効果的に利用する方法もみえてきます。

さきほど述べた反転学習は、もともと行っていた講義をオンライン等で提示する必要があることから、講義の収録を行う必要がでてきます。さらに、最大限の効果を見込むためには、学生に宿題として提示するコンテンツの質を一定以上確保する必要があります。そこで MOOCs で公開されている修了書の配布を前提とした質の高いコンテンツを活用することで、これらの負担を軽減することが可能になります。東京大学の反転学習社会連携講座の公開研究会では、サンノゼ州立大学における MOOC と反転授業の実践の中で、単位取得率が大きく向上したとの報告^[1]がありました。また、国内でも今年の10月に東京工科大学が情報学の授業の一部に gacco^[2] の講義を授業で活用するとの発表もありました。信州大学でも、教育学部の「発達・教育心理学概論 A/B」（島田英昭先生担当）や「道德教育と市民社会 A/B」（高柳充利先生担当）では、スライドと組み合わせた講義動画を、自作または当センターの映像録画支援により制作し eALPS にアップロードして、e-Learning での学修を可能にしています。

海外を含む有名大学の講義がオンライン上で誰でも無料で受講できる時代になり、個々の大学や教員は、それぞれの特質を維持し、それらを活かすような運営や授業を求められるようになりました。教員の皆様がこれまで築いてきた授業スタイルやノウハウを活かしながら、時代の流れに合わせた新たな教育スタイルを考える際の参考になれば幸いです。

* 参考

- [1] MOOC と反転授業で変わる 21 世紀の教育
<http://lit.iii.u-tokyo.ac.jp/seminar/001-2.html>
- [2] gacco, <http://gacco.org/>



JMOOC (日本オープンオンライン教育推進協議会) ワークショップ開催報告

10月10日、本センターの後援による JMOOC 「大学の MOOC 活用に関するワークショップ」が長野（工学）キャンパスにて開催されました。JMOOC 事務局長を務める福原美三明治大学特任教授による MOOC の海外動向と JMOOC の展開についてデータを基にした事例紹介に続いて、JMOOC コンテンツに利用可能な著作物と講座制作、大学や先生方のご負担等について説明がありました。当日の様子の一部を動画にて公開する予定となっております。



繊維学部 材料化学工学課程
農学部

eALPS 関連の研修会を開催しています

e-Learning センターと高等教育研究センターの共催による研修会を繊維学部と農学部で開催しました。

9月16日は繊維学部材料化学工学課程12名の教員にお集まりいただきました。

7月に同学部でeALPS研修会を開催した際に、「今までメールで行っていた学生・教員間のファイルのやり取りをeALPS上で行えないか」というご相談をいただきました。それを受けて今回の研修会では、eALPSの課題機能を利用して学生が自分のファイルを提出し、教員が提出ファイルを添削して返却する方法をご提案しました。課題機能では学生が他学生のファイルを開覧することはできません。提出ファイルの管理も楽になりますし、提出状況の確認なども簡単に行えるようになります。



繊維学部材料化学工学課程

学科や課程単位でお集まりいただく研修会は初めてでしたが、多くの質問や提案をいただき、あっという間に時間が過ぎました。今

後もこのような研修の要望にお答えしていきたいと思えます。

10月16日には農学部で、「教育におけるICT活用について」と題し、FD講演会として開催いたしました。

初めに、大学教育への社会的要請や第2期教育振興基本計画を踏まえ、ICT活用による協働型・双方向型の学習についてお話しさせていただきました。その後、eALPSを利用したICT活用の事例を紹介し、それぞれの先生の要望を伺って実際にお使いのコースでeALPSの体験もさせていただきました。参加された皆様には後日、FD参加証が交付されます。



農学部

学科・課程単位でもご要望に応じた日程・内容で研修会にお伺いしますので、e-Learningセンターまでご連絡ください。

eALPS バージョンアップ情報 ③

このコーナーでは、2013年春のeALPSバージョンアップに伴う新機能をご紹介します。

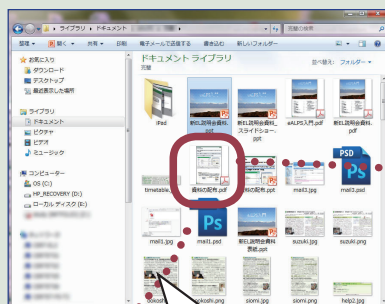
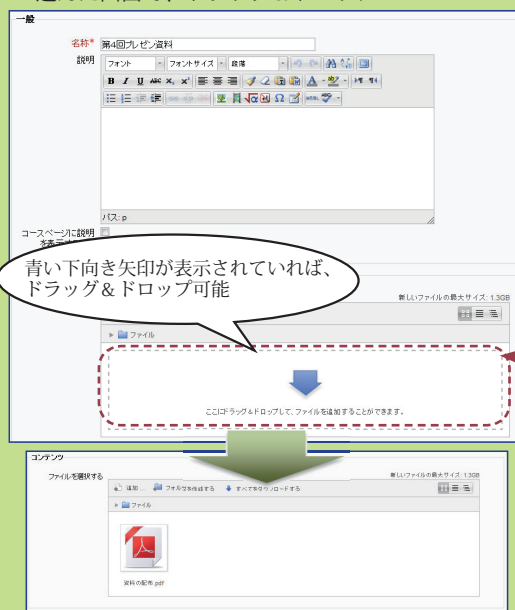
ドラッグ&ドロップで、ファイル指定ができるようになりました

「教員が資料を掲示するためにファイルをアップロードする時」や「学生が課題ファイルをアップロードして提出する時」にドラッグ&ドロップでファイル指定ができるようになりました。以下の例は、教員がドラッグ&ドロップ機能を使って資料を掲示する2つの方法を示したものです。

* この機能はブラウザ（Internet Explorer 9以下など）によって利用できない場合があります。

【方法1】

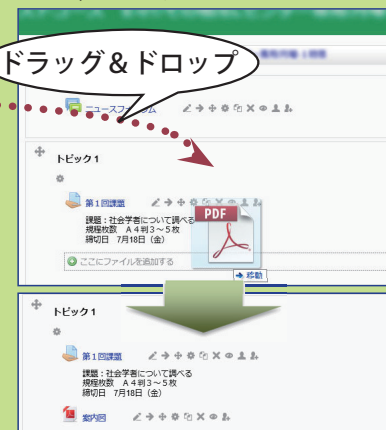
活動またはリソースを追加するからファイルを
選んだ画面で、ドラッグ&ドロップ



ドラッグ&ドロップすると、標準で表示オプションが埋め込みになりますが、埋め込みでは正常に表示されない場合（iPadで表示する場合など）があります。歯車のアイコンを選んで、ポップアップまたはダウンロードを強制するに変更することをお勧めします。

【方法2】

コースのトップ画面で編集モードの開始
をして、ドラッグ&ドロップ



ドラッグ&ドロップの後、鉛筆のアイコンで名称を変更したり、歯車のアイコンでその他の設定を変更することが可能です。